

2023 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070901832		
法人名	株式会社ケアリング		
事業所名	グループホーム東光寺	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋1丁目18番35号		
自己評価作成日	2024年2月5日	評価結果市町村受理日	2024年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年3月27日	評価確定日	2024年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様にその人らしく生活して頂ける様、個々に必要な支援を提供できるよう常にスタッフ全体で話し合いを行っている。又、お米は耶馬溪の美味しい水で育ったものを取り寄せ敷地内には野菜も栽培し収穫の喜びや新鮮な季節の物を頂いたりしている。医療体制としては月2回の定期往診、訪問歯科も週1回来て頂き又、週1回訪問看護師による健康チェックや訪問リハによる機能訓練、薬剤師による服薬の相談、管理者が看護師の為、それぞれと連携をとり日々の体調管理を行っている。必要であれば訪問マッサージも利用している。施設の中でもラジオ体操や機械運動を行いメリハリのある生活を心掛けている。コロナ禍においても感染対策を充分行った上で御家族との面会は中止せず関係が途切れない様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム東光寺”の理念は「共に嬉しい時は喜び合い、困っている時は助け合い、敬う心をいつも持ち、自分らしく安心して暮らす事の出来る憩いの場にいたします」であり、入職されたスタッフ、外国籍のスタッフを含めて日々実践に繋げている。2022年に台所、浴室のリフォームを行い、トイレ、廊下、ホール、居室の壁紙を張替え、明るく過ごしやすいホームになっている。「看取り部屋」も作り、家族が休める部屋としても活用していく予定にしている。約4カ月にわたる改装工事となったが、荷物の出し入れ、工事の音、人の出入りなど非日常の時期であり、ご入居者の生活への配慮を一番に考え、環境変化に伴う混乱を少しでも減らし、安心して暮らせるように努めてこられた。リフォーム後、新しい壁紙を見て、ご入居者から「綺麗ね～」などの言葉が聞かれ、管理者とスタッフは心から安堵されたそうである。2024年に入り、更なる業務改善を続けており、職員個々の成長に繋げる取組を始めている。その時々現状と課題を社長、常務、支店長等が理解して下さり、課題解決に向けたアドバイスを頂くとともに、系列の事業所と協力して人員体制の確保に繋げている。管理者とスタッフは「嬉しい時は喜び合い、困っている時は助け合い…」、ご入居者の笑顔を増やせるよう日々努めている。
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、入居者様と一緒に理念を唱和し関係性を深め実践に取り組むようにしている。	管理者が異動してこられた際、職員と一緒に今の理念を作られた。「ともに嬉しい時は喜びあい、困っている時は助け合い、敬う心をいつももち、自分らしく安心して暮らすことのできる憩いの場にいたします」という理念には、ホーム名である『東光寺（「と」「う」「こ」「う」「じ」）』が盛り込まれている。日々温かいケアを行い、ケア内容の統一を図るために職員の育成も続けており、訪問看護師から医療面の指導も受けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等は難しいが散歩等に行った時は積極的に声掛けしコミュニケーションを図るように心掛けている。	ホーム周辺を散歩し、地域の花壇を眺めたり、地域の方にご挨拶している。町内会に入っており、町内会の副会長が地域情報を届けて下さり、敬老の日にお茶の葉を頂いている。中学校の体験学習も受け入れ、歌を唄って下さった。1階のデイで行われる年忘れ会や餅つきに参加したり、デイに来られた園児が「本のしおり」をプレゼントして下さい。コロナ前は町内の会合に参加しており、現在は開催がなくなった地域の夏祭りに参加していた。今後は園児にホームに来てもらい、楽しい時間を過ごせればと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や機会がある時には町内会等に管理者が出席し施設の紹介をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近で2回程やっと施設での運営推進会議ができ、久しぶりに町内の方達とお会いする事ができた。施設内もリフォームし、見て頂けて良かったと思う。	コロナ禍は書面会議を行っていたが、2023年7月からホームで対面開催している。一部の参加者も変わられており、グループホームの役割などをお話ししている。管理者以外にケアマネ等が進行する場合もあり、今後も地域交流の在り方、地域情報や防災に関する情報交換を深めていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や不明な事がある時は連絡しアドバイスや情報提供を受けるようにしている。	不明点は博多区役所の担当者にメールで相談している。居室のコール設置等の必要性を教えて頂いており、事故報告も郵送している。日頃は内部で勉強会を行い、系列のグループホーム同士で制度の情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い職員間の共有や話し合いを行うようにしている。	運営推進会議で身体拘束委員会を行い、「スピーチロックとは」「向精神薬」等の勉強会で理解を深めている。会議に参加する地域の方から「薬も拘束になることを初めて知りました」等の感想が聞かれている。職員全員でプライドを持って仕事を行うように努めており、2024年2月に第1回目となる「虐待防止委員会」を開始し、今後も開催方法を検討していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行いスタッフ全員が同じ認識で理解し共有するようにしている。又、スタッフ全員がストレスを溜めないよう管理者より時折、面談を行うようにしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を定期的に行い学ぶ機会を設けている。	成年後見制度を利用する方もおられ、後見人に必要な情報提供をしている。入居時に制度の説明を行い、入居後の家族状況の変化に応じて、再度制度の必要性の確認を続けている。内部研修（高齢者虐待及び権利擁護について）も行い、権利擁護を学ぶ機会が作られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族に契約書・重要事項説明書に沿って説明し疑問点等がないか確認し進めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来所時にはお時間を頂き話をさせて頂いたりし、なかなかお会いする機会の無い御家族には電話でお話するようにしている。	面会や電話、ホーム便りなどを通して、家族に暮らしぶりを報告している。家族が訪問時は笑顔で挨拶を心がけ、思いを話して頂けるように努めている。食事が摂れない方のホームでの自然な生活の在り方を含め、医師、看護師、家族と一緒に検討している。家族との担当者会議を行っており、更なる情報交換を行う予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や申し送り時、又は個別に話が聞けるよう時間を設けたりし問題や要望を前向きにし進めるようにしている。	スタッフの入れ替わりもあり、管理者等がスタッフ個々の育成を続けている。外国籍の方の入職に際し、スタッフ全員で受け入れ体制を検討し、既に外国籍の方を受け入れている事業所にアドバイスを頂いた。食事等を含め、文化の違いも勉強し、お互いを理解できるように努めている。日々成長しているスタッフが、少しでも長く勤務できることを大切にされており、現場の状況を社長、常務等と共有するとともに、行事開催も職員優先で検討し、スタッフ全員がリーダー的な業務ができ、より良いチームになれる取組を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大入りや昇給も定期的にあり評価を頂いている。又、外部研修にも積極的に参加させて下さり認知症について学ぶ機会もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたってはコミュニケーション能力を一番に考えているので未経験、海外の方も入職してから資格習得をしてもらったりチームケアを考え取り組んでいる。	支店長と管理者が面接している。採用時は「笑顔とコミュニケーション能力」を大切に、“束光寺”に合う方かどうかも見極めている。ステップアップのための異動もあり、異動前は職員の気持ちを確認している。年代問わず、年代の良さを発揮してもらっており、業務への要望等を確認し、長く勤務できるよう配慮を続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例会等で気になった時はその都度話合ったり内部研修も定期的に行うようにしている。	ご入居者は人生の先輩であり、職員を育てて下さっている。理念である「ともに嬉しい時は喜びあい、困っている時は助け合い、敬う心をいつももち…」を共有し、普段のケアの中で“入居者の権利は守れているのか”等の振り返りを続けている。管理者は個々の場面に応じた職員指導を行い、挨拶も徹底し、プロとしての仕事が行える環境作りに努めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の持たない職員や外国人もいるので皆でコミュニケーションをとる機会を持ったり技術向上を心掛けている。又、内外研修も参加出来るよう環境作りに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に所属し情報収集や同業者との交流の場として活用している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人、御家族との会話の中から困っている事、不安に感じている事を聴き取りスタッフ全員でケアマネ中心にプランを提供するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネを中心に御家族と話す機会を多く持つように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の希望を中心に必要とする最善のサービス提供が出来るよう話し合いをし対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩とし個々を尊重し出来る事はして頂き一緒に時間を共有できるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな小さな事も御家族に相談しケアを行うように心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との外出は声掛けしたり少人数での面会は来て頂くよう努めている。	ご入居者の生活歴を把握している。家族の協力で外食を楽しまれたり、家族や親戚、友達等もホームにいられている。家族や友達から年賀状や手紙が届いたり、電話での交流を継続している。コロナ以前は自宅に帰られたり、お墓参りに行かれる方もおられた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人を尊重しながら気の合いそうな方と同席にしたりレクリエーションの時は話しやすい環境に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時節のお便りをお出ししたり必要の応じて電話等もするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとるように心掛け情報をスタッフ全員で共有できるよう定例会等で皆に伝達している。	居室担当のスタッフと一緒に掃除等を行い、ご入居者の思いを伺ったり、入浴時にゆっくりお話をされており、生活歴を通して、好きなことを把握している。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いを理解するようにしており、家族からも生活歴を教えて頂いている。「自分に関心をもってほしい」「見守りで一緒に動いてほしい」「歩きたい」等の思いに寄り添い、歩行訓練等も行い、単調な日々にならないように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリング等を定期的に行い、振り返り等を定例会で行うようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、毎日の申し送り時にスタッフ全員が同じ認識で把握できるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者や管理者が中心となり本人や御家族から要望等を聴き取り定例会で検討し介護計画に盛り込むようにしている。	入居時はスタッフ全員でアセスメントしている。計画作成担当（ケアマネ）が介護計画原案を作成し、会議で検討しており、ご入居者の残存能力を見極め、“できること”をして頂くように努めている。個別レクやリハビリを盛り込み、週2～3回の訪問マッサージを受け、立位・歩行訓練をされる方もおられる。担当職員がモニタリング（評価）を行い、ケアマネ含めて職員全員で検討しており、家族から計画の記載内容の依頼もあり、計画作成に活かしている。	今後も多職種連携を行い、各専門職からの情報を集約した短期目標に繋げていく予定であり、スタッフ全員で「食事」「排泄」「移乗」「移動」「入浴」等の個々のケアの質の向上に繋げていきたいと考えている。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを活用しスタッフ間の情報共有をしている。また、申し送り時にも変化や気づきを伝達し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の状態観察を充分に行い御家族とも相談し今、何が必要かをスタッフ間で話し合いサービスの変更をおこなったり訪問ドクターにも相談しながらサービスの提供をおこなうようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて入居者様を見かけたりした時は声掛けをお願いしたり散歩時に顔みしりになっていただいたりするように心掛けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療連携をとり入居時御家族にお話しし、納得して頂く様に説明している。月2回の定期往診もして頂き健康管理も行っている。訪問歯科にも週一往診に来て頂き口腔衛生にも努めている。	必要時はスマホ（写真添付）で訪問看護師に報告し、管理者（看護師）とも情報共有し、早期対応に繋げている。往診時は訪問看護師が同席し、管理者（看護師）と介護職とご入居者個々の情報提供を行い、減薬に繋がる方もおられる。受診結果は管理者（看護師）が家族に報告し、家族の意向を確認している。医師、歯科医師、訪問看護、訪問リハ（マッサージ）、薬剤師等の多職種連携もできており、計画に活かすように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の為、何か変化があれば直ぐに報告するように徹底している。又、週一に訪問看護師にもきてもらい変化を相談出来るようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院訪問し情報収集してり訪問ドクターとも相談しながら受け入れ体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師も交え小まめに面談を行うようにしている。	入居者全員、ホームでの看取りケアを希望されており、主治医と家族と連携し、最期まで誠心誠意のケアを続けている。ホーム内をリフォームした際、「看取り部屋」を作られ、家族も宿泊でき、家族が休める場所としても活用する予定にしている。体調変化に応じて、適宜主治医に相談し、主治医の往診と訪問看護を利用しながら、ケア内容の話し合いが行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会時に全体に周知を行うようにしており、何かあれば直ぐに管理者に連絡するように徹底している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い周知徹底をするようにしている。又、地域にも運営推進会議を通じて協力をお願いしている。	ハザードマップ上「浸水」対象エリアであり、2023年12月に「浸水」訓練を行い、1階のデイサービスの方が2階のグループホームに避難してこられた。地震想定訓練も行われ、ホーム単独でBCP（事業継続計画）を作成し、適宜見直しをしている。訓練はデイサービスと行い、グループホームは夜間想定で訓練し、夜勤専従者とも避難方法を共有しており、災害に備えて飲料水3日分、食料は常に準備している。消防署は年2回点検に連れられ、避難時は安全を考え「避難シューター」は使用せず、ベランダに出よう指示を頂いており、漏電対策も続けている。	スタッフ体制の変更もあり、今後も定期的にBCPの研修を通して理解を深め、確実な実践に繋げていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気になる発言があった場合は個別に注意、指導するようにしている。	入居者個々の自尊心や羞恥心に配慮し、入浴時等も希望に応じて同性介助が行われている。言葉遣いに留意し、「ダメ」「やめて」「座って」等の静止言葉を使用しないように努めている。「待つて」ではなく、待つ理由も伝え、「ちょっと待ってくださいね」と伝えるようにしている。更なる業務改善等を行い、気持ちに余裕が持てるように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり雑談しながら話しやすい環境をつくる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のきまり事はあまり作らず、その時々で変更したり柔軟な対応をするように心掛けいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容にきて頂いて御家族の意向や御本人の希望にそえるようにしている。又、母の日等イベントの時はプレゼントを送ったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作れる物をメニューにしたり季節の物を取り入れるように心掛けている。	朝・夕と日曜（3食）はホームで手作りし、昼は1階のデイサービスで調理している。ご入居者も、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き等とともに、おにぎりを握って下さり、バナナを包丁で切って下さり、枝豆の豆取りもして下さる。嚥下状態に応じてミキサー食や刻み食等を準備し、優しい食事介助を続けている。食事摂取ができない方もおられ、口腔ケアを丁寧に行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日把握し訪問医師とも相談しながら食事形態・内容を検討している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い訪問歯科にもケアの指導をもらいながら実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いパターンを掴むように努め食生活にも気をつけている。	トイレの壁紙を新しくしており、「綺麗ね」と好評である。下着を着用し、排泄が自立している方や、ご本人の有する能力（できそうなこと）を検討し、日々のケアに活かしている。なるべく薬を使わないよう、毎日ヨーグルトを提供したり牛乳を飲んだりして頂いており、今後も運動量を増やしていく予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬はなるべく使用しない方向で、入浴時シャワーでお腹を温めたりマッサージをしたりヨーグルトも毎食提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本決めてはいるが希望や体調に配慮しながら柔軟に対応するようにしている。又、入浴時、羞恥心に配慮しながら安心して入浴して頂けるようにコミュニケーションにも努めている。	浴室のリフォームに伴い、リフト浴が設置され、全員が湯船に入れるようになっている。入浴好きな方が多いが、拒否が見られる際は無理強いせず、様子を観察しながら声かけをしている。できる範囲は洗って頂き、職員との会話を楽しまれ、菖蒲湯、柚子湯も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	11月末に新ベット6台入れ替え勉強会もしベットの機能を十分に活用するようにしている。又、夜間の睡眠に支障が出ない程度に昼も休んで頂く事もある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	直ぐに見える所に個々の薬リストを掲示し確認が出来るようにしている。又、薬変更があった場合は申し送りやカードックスに記入するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力を見極め出来る事は声掛けして頂くようにしている。又、御家族に協力頂き御本人の嗜好品を持ってきて頂いたりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナでここ3年程出来ていないので今年は家族も巻き込み行いたいと考えている。	敷地内の散歩や花見、周辺の桜の花見、受診時のドライブをされている。家族の希望があれば感染対策に注意しながら外食等を楽しまれている。コロナ以前は“いちご狩り”を楽しまれ、地域の夏祭りに参加していた。ルミエールに買物に行き、洋服等を購入する方もおられた。手作り弁当を持参し、桜の花見を楽しまれ、ドライブや自宅訪問をされていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニやスーパーで御本人で買い物して頂き見守りながら会計をして頂くようにする。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をいつでもして頂けるように声掛けをしたりしている。又、御家族にも電話を頂けるように努めている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒リスクの高い方も生活されているので動線を妨がないように常に気を付け安全な生活を提供できるように努めている。又、自室がわかりやすい様に写真入りプレートを掛けたり暖簾で区別出来るようにしている。	共有空間各所のリフォームを行い、家族が宿泊できる場所を作られた。壁紙を張替え、トイレも明るくなり、浴室も使いやすくなっている。台所とリビングが一体化しており、外の景色を眺めることができる。台所から各所が見えるように壁に鏡を配置しており、廊下は天窓があり、明るさを保っている。廊下の手すりを使って、歩行練習されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は介護度やそれぞれの個性を考慮し臨機応変に対応するように心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は本人の使い慣れた物や思い出の品を置いて頂くようお願いし環境変化による混乱を最小限におさえるように努めている。	居室の壁紙も張替え、ベッドも6台入れ替え、ベッドの使用方法的勉強会も行われた。1部屋はトイレ付きで、7部屋は洗面台が付いている。2つの部屋は洗面台が無く、居室前の共有洗面台を使用している。タンスやお位牌、マリア様などを持ち込まれ、家族の写真やご自分で描かれた絵を飾っている方もおられる。ベランダに洗濯物干しがあり、下着を洗って干している方もおられ、ご自分のモップで掃除をされる方もおられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用する事により安全に移動出来るように声掛けを常に行うように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 : 25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 : 9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 : 20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 : 2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 : 40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 : 4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目 : 38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目 : 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 : 51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 : 32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目 : 30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				